

## 伊平屋村地域計画策定について / 野甫英芳

■7番 野甫英芳議員 7番 野甫です。質問させていただきます。まず「伊平屋村の地域計画策定について」お伺いします。以前、各集落の公民館で「農業用地をまとめて、農業を集約化しよう」ということで話し合いがありました。どういうことかと言うと「農業従事者が高齢化して、減少していき、耕作放棄地が増える」ということで、このまま放っておいたら大変なことになるので、この地域策定計画があって、2回ほど各公民館で各区の村民を集めて話し合いが持たれました。その後、動きが全く見えないので、現在どうなっているのかお伺いします。よろしくお願ひします。

■議長（金城信光） 答弁、農林水産課長。

■伊礼直樹農林水産課長 野甫議員の質問にお答えします。野甫議員がおっしゃるとおり、昨年度、地域計画策定のため各区において地域住民と協議を行い、伊平屋村の現況地図、10年後の目標となる地図を作成しました。ただ、担い手に関しては若者や新規就農者が少ないことから、現状の耕作者を10年後も当てはめている状況です。

最終目標としては、次期担い手と新規担い手の方々への農作業の効率を上げたいことから、農地集約を目指す方針としています。農地の集約に関しては、地権者と耕作者との契約等がほとんどされていない、無許可農業がとても多いので、島外の地権者に対して現状報告を行いながら、農業委員会と連携し、再度策定を進めてまいりたいと思います。

策定については、毎年更新できるようになっていまして、現状は10年後の目標地

図というのが目標となっています。10年後を作ることによって、耕作放棄地にならないというのを前提におかないと、今後事業ができなくなってくる。そのための地域計画となっています。

無許可農業が多いので、今後はそのへんも含めて申請を提出していただいて、ちゃんと権利設定もいただくという方向で、並行しながら進めていきたいと考えています。以上です。

■議長（金城信光） 野甫議員。

■7番 野甫英芳議員 「10年後を目標にしている」と言うんですけど、そうしますと10年間は、今の状況が変化しないということなんですか。

■議長（金城信光） 農林水産課長。

■伊礼直樹農林水産課長 野甫議員の質問にお答えします。毎年更新ですので、実情に合ったものに変えていきます。

あと、伊平屋村では農業法人はサカエファームさんのみなんですけど、ああいったところが今後は面積を拡大していくと思っていますし、集落営農等を今後進めていく予定なので、いくつか法人を立ち上げたいという声も聞いています。そのへんも農家の皆さんから相談を受けながら、進めていきたいと考えています。以上です。

■議長（金城信光） 野甫議員。

■7番 野甫英芳議員 そうしますと、現在はほとんど具体的な話が進んでいないということなんですよ。農地の集約化とか農業人口を増やすために若者を揃えるとか、農地の中間管理機構をとおして土地整理をするとか、いろいろな話がありました。農業をされている皆さんが集まって、会合でそういう話をしないんですかね。

そういう話をして、毎年少しずつ進めていかないと10年後も変わらないと思うんですけど、どうです。そのへんの具体的な動きは、ないんですか。

■議長（金城信光） 農林水産課長。

■伊礼直樹農林水産課長 野甫議員の質疑にお答えします。地権者と耕作者との権利設定というか、賃貸契約のようなものを結ばないかぎり前に進まないんです。行政だけが進めようと思っても、このへんが難しくて時間がかかると思っています。今後は、農地バンクと言われている中間機構をとおして契約していくのが、国全体としての方針となっていますので、「伊平屋村も、それを含めて進めていければ」と考えています。以上です。

■議長（金城信光） 野甫議員。

■7番 野甫英芳議員 行政の機構ということで、例えば課長があと二、三年後にまた農林水産課長から別の課に移ったとして、別の課から新しい課長が来たとする、またいちから出直しみたいな感じになるじゃないですか。そうすると、伊平屋の農業用地とか農林の農業用地の進み方が悪くなる。現状も、高齢者になって耕作農地が増えるということが全く改善されないまま、ずっときているわけですね。これをそのままにしておくというのが、どうも納得できません。課長がいる段階で、少しでもいいですので具体的に進めていけたらいいなと思います。よろしく願います。以上です。